

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月11日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K04701

研究課題名(和文)日本の「書くこと」の教育改善のための調査研究 - ドイツの入門期文字言語獲得の知略 -

研究課題名(英文)Survey research for improving the "writing" education in Japanese

研究代表者

鈴木 慶子 (SUZUKI, Keiko)

長崎大学・教育学部・教授

研究者番号：40264189

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、下記の(1)～(3)に整理される。(1)文字言語獲得入門期テキストの比較、(2)文字言語獲得入門期授業の観察[ライプチヒ市の基礎学校]、(3)書字の発達に関する観察[長崎大附属小]。

(1)ドイツのテキストは、「なぞる、書く、描く」に限定されない多様な活動が展開されている。(2)ライプチヒ市の基礎学校では2つのタイプの授業を観察した。一つは伝統的な方法であり、もう一つは革新的な方法である。(3)日本の「書くこと」の教育を改善するために、まずは徹底的に不足している児童の書字の実態を把握する必要がある。その上に立ち、多様な活動に「書く」活動を開いていくとの見解に至った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の「書くこと」は書字・書写(書き方)と作文との2本立てで行われている。しかもそれらは互いに孤立的である。児童にとって、負担の大きい「書くこと」の学習を豊かに実践していくためには早急な改善をし、現在及び将来において求められている汎用的な論理的記述力を身に付けていく必要があるからである。そのためには、幼少期から、「書くこと」が好き、楽しいと感じる子どもを育成していく必要がある。その土台となるのが本研究の成果である。文字学習の入門期において、常識化している取り立て学習やドリル学習も必要であるが、それを行いつつ、実際の言語使用場面を想定した多様な活動に開いていくことができる可能性も見えてきた。

研究成果の概要(英文)：The results of this research are organized into the following (1) to (3). (1) Comparison of the texts for the introductory written language acquisition period. (2) Observation of the classroom instructions for the introductory language acquisition period. (3) Observation on the development of handwriting [The Elementary School Attached to the Faculty of Education, Nagasaki University]

(1) German texts contain a variety of activities that are not limited to "tracing, writing and drawing." (2) The authors observed two types of classroom instruction at Grundschulen in Leipzig. One is a traditional method and the other is an innovative one. (3) In order to improve the "writing" education in Japan, it is necessary to thoroughly grasp the present situation of children's writing, which so far is insufficient. Based on the results, we should expand the "writing" activities to the various ones that encompass some aspects of listening, reading and/or recognizing as in Germany.

研究分野：教科教育学

キーワード：書字 作文への接続 ライプチヒ市の基礎学校 革新的な文字教育 伝統的な文字教育 観察研究の不
 足(日本) 書字に関するカリキュラムの再構築 内容理解との関係

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 読み書きの力は学力の基礎である。その上に立って、本研究では、入門期の「書くこと」の教育改善を対象とする。その背景は、下記である。

「書くこと」は言語活動の中で最も負担が大きく、いつの時代においても教育実践において効果を上げることが求められている。

「書くこと」は、「読むこと」を包括している。昭和期の小学校教員として、圧倒的な実践力を誇った青木幹勇氏は、「...『書きながら読む』さらには『読むために書き、書くために読む』という『書くこと』によって統合される」と述べた。つまり、「書くこと」の改善によって、「読むこと」への波及効果が期待できる。

(2) 文字言語を操作する能力は、音声言語のそれに比較して、獲得が非常に困難である。Handbook of educational psychology(2006)によれば、英語の学習においても、児童の「書くこと」の困難さが述べられている。

(3) 日本語は、発音1音が仮名文字1字にほぼ対応する、このことから、文字言語入門が容易だとされる。しかし、児童にとってはそうでない。鈴木らが行った公立小学校を対象とした調査(2008)によれば、入門期文字言語獲得の困難さが如実に察知できた。

入学当初、上位層(清音の読み書きほぼ完璧)、中位層、下位層(清音の読み書きほぼなし)の、どの層にも、「読めない」清音を「書くこと」ができる児童が1割程度、存在する。

2学期以降、語のまとまりで「読むこと」ができるかについては、学校差が大きい。簡単な文の暗写では、完璧にできた児童は皆無であった。清音以外の箇所でも千差万別の誤りが生じていた。

その際、語文として書字した字形の質は、単独で書字した字形の質に比して、著しく低下していた。

以上から、欧米語に比較して、文字言語の獲得が容易だと言われている日本語にも、独特の困難さがあることがわかった。

日本のカリキュラムにおいて、「書くこと」は、書字・書写(書き方)と作文とは、2本立てで構成されている。しかも、その2本が孤立的である。書字・書写(書き方)では字形を書くという技能に力点が置かれ、作文では意味を綴るということに力点が置かれている。双方の間には深い溝がある。すなわち、字形習得が就学前の家庭で行われ、表現、語法及び文体の「自前化」の練習が極めて少なく、一気に創作作文へとなだれ込んでいく。

(4) 土山によれば、ドイツの入門期文字言語獲得は、次のように概観される。

ゆったり2年間をかける。

書字練習から文章創作へと階段が緻密に仕込まれている。書字・筆記法、正書法から作文へと切れ目無く学習が進行する。

上記の成功が、「書くこと」が好きで「書くこと」が億劫でない人間を育て、論究力に富むドイツ人の言語能力の基盤を形成していることが推測できる。

2. 研究の目的

前項1で述べたように、日本の「書くこと」の教育は、思うように効果を上げていない。

一方、ドイツの「書き方」教育は、入念な作文入門の側面を持っている。

文字言語獲得の入門期にアプローチすることによって、硬直化している日本の「書くこと」の教育に関して、根本的な解決の糸口を得る。つまり、従来、孤立的に行われてきた書字・書写と作文との指導の改善に関するヒントを得る。

3. 研究の方法

(1) 書き方教科書(Erstes Schreiben)とワークブックにおける文字言語への出会わせ方を分析する。

(2) 基礎学校1年生と2年生の、実際の「書き方」授業を参観する。

(3) 並行して日本人児童の書字発達を観察する。このことに基づいて、上項(1)及び(2)を相対化し、日本語の「書くこと」の教育カリキュラム再構築の糸口をつかむ。

4. 研究成果

(1) 文字言語獲得入門期テキストの比較

底本にしたテキストは、下記の通り。

教科書...日本； 『あたらしいこくご 1上下』(東京書籍 2016年)

『あたらしいしょしゃ 1』(同上)

ドイツ； 『Einsterns Schwester 1 Erstlesebuch』(Cornelsen 2015年)

ワークブック...日本； 『しょしゃノート 1上下』(青葉出版 2016年)[に準拠]

『あかねこひらがなスキル』(あすとこ出版)[に準拠]

『あかねこカタカナスキル』(同上)[同上]

『あかねこかんじスキル上』(同上)[同上]

『あかねこかんじスキル下』(同上)[同上]

ドイツ； 『Einsterns Schwester 1 Mit der Schreibtabelle schreiben』

(Cornelsen 2015年)[に準拠]

なお、本稿では、紙幅の関係で、成果の一部を記述することとする。

a 語頭音の徹底

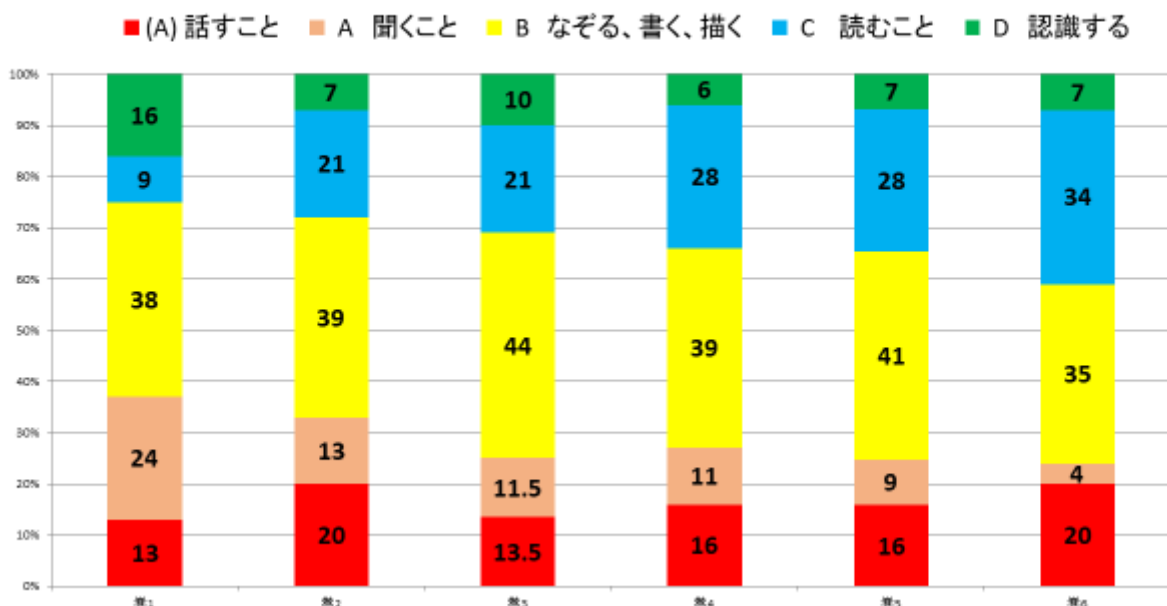
日本語との最も大きな違いは、『Einsterns Schwester 1 Mit der Schreibtablette schreiben』による文字への手引きである。そこでは、語頭音表に集約される学習内容を、文字を書くこと以外に、目で見ること、耳で聞くこと、及び理解することの活動を繰り返し行って、語頭音を徹底的に習得させようとしていることがわかる。

b 「書く」以外の活動に開く

日本の ~ は、書字・書写の学習のみを取り立てて扱っている。つまり、平仮名、片仮名、及び漢字を書く、なぞる活動のみの閉じた活動で組織されている。作文や「話す」「聞く」「読む」の活動との関連はない。

一方、ドイツの は、書き方ワークブックであるが、図1に示すように、5種の活動で組織されている。最も多いのは「B なぞる、書く、描く」活動であるが、全巻を通じて、全体の40%前後に留まっている。

図1 掲載されている活動(アルファベットを使って行う活動)



5種の活動は、さらに細かくマークによって、下記(A)BCのように指示されている。また、「B なぞる、書く、描く」では、図2に示すように、合わせ技で活動が組織されている。

- (A) : 「パートナーと話す」「グループで話す」
- B : 「(ワークブックに)なぞる、書く、描く」「ノートに書く」
- C : 「(自分一人で)読む」「パートナーと読む」

図2 「B なぞる、書く、描く」と組み合わせられている活動

	巻1 24/54	巻2 34/54	巻3 31/54	巻4 47/54	巻5 52/54	巻6 36/54
+話す	3	5	4	0	0	3
+聞く	5	7	6	9	7	1
+読む	7	13	15	17	20	11
+認識する	7	1	4	3	7	6
+話す+聞く	1	0	0	0	3	0
+話す+読む	1	8	1	14	13	14
+話す+認識	0	0	1	4	2	1

複数の活動を扱うページ数/全ページ数

c 多種多様な「B なぞる、書く、描く」活動

「B なぞる、書く、描く」に関しても、多種多様な活動として仕組まれている、例えば、巻1では、下記12種の活動を導いている。

- (あ) (単独の)文字をなぞる 手本あり、書き順あり、回数指定あり。話すこととの関連も。
- (い) (単独の)文字を空欄に書く...手本あり、書き順なし、回数指定なし。話すこととの関連も。
- (う) 単語中の指定された文字をなぞる...認識することとの関連も。
- (え) 罫線に文字/単語を書く...認識することとの関連も。
- (お) 学習文字を聞き取り、メモをとる...聞くこととの関連も。
- (か) 語頭音を聞き分け、メモをとる...聞くこととの関連も。
- (き) ノートに書く...話すこととの関連も。
- (く) イラストの語頭文字から別の単語を作る 話すこととの関連も。
- (け) 音節をつなぎ、単語を書く...読むこととの関連も。
- (こ) 適当な単語/文にチェックをつける...読むこととの関連も。
- (さ) イラストの人物や物の名前を書く...読むこととの関連も。
- (し) 欠けている文字を補う...読むこととの関連も。

以上のような多種多様な「B なぞる、書く、描く」活動を行うと、全巻を通じて平均11回以上のなぞり書きを行うこととなる。日本語のワークブックが極めて単調な仕組み(全文字同数回、他活動との関連なし等)であることと対照的である。

図3 1文字に対するなぞり書きの回数

巻1 平均18.7	L 8	O 6	A 9	M 10	I 12	S 7	T 11			
	l 11	o 8	a 10	m 7	i 12	s 8	t 12			
巻2 平均18.6	E 9	N 9	D 8	U 8	P 9	K 9				
	e 11	n 9	d 9	u 10	p 10	k 11				
巻3 平均17.8	B 10	F 6	Ei 3	R 5	H 10	W 8				
	b 12	f 10	ei 13	r 15	h 5	w 10				
巻4 平均12.7	G 4	Au 4	Sch 4		Z 5	Eu 3	Ch 2			
	g 8	au 10	sch 8	ie 13	z 10	eu 9	ch 9			
巻5 平均11.2	Sp 6	St 6	Ä 2	Ö 2	Ü 1		Äu 2	V 4	J 6	
	sp 5	st 5	ä 9	ö 10	ü 12	ng 1 0	äu 8	v 8	j 5	
巻6 平均11.7			X 2	Y 2	C 8		Qu 7			
	nk 13	β 11	x 10	y 9	c 3	ck 1 2	qu 5			

(2) 文字言語獲得入門期授業の観察 ライプチヒ市の基礎学校の場合

2017年11月に、ライプチヒ市において、入門期国語科教育に関して、伝統的な学習指導を行う基礎学校と、革新的な学習指導を行う基礎学校の2校の授業を参観することができた。参観後は、授業者(担任)に質疑応答の時間もとっていただいた。

伝統的な授業において際立つのは、1つのアルファベット(本時ではN/n)の徹底的な取立指導である。原則、週ごとに3授業時間をかけて1アルファベットを取り上げるとのことである。入学からおよそ2ヶ月が経過していた時点で、「N/n」が学習されていることから、ほぼ入門期書き方教育の教育課程に沿っていることが推測され、多くの児童が10単語程度は書くことができるようになっている。下表の学習活動で物語の読み聞かせがなされ、一応は文脈の中で単語が提示されているが、内容理解や感想 - これは読むことの授業においてなされているかもしれないが - が問われることなく、文字と音声とを対応させることに終始している。また、絵(意味) 音声 文字へとつなぐ伝統的な教具「語頭音表」が教室内3箇所に掲示されていることから、ルールプラン【学習領域】文字言語獲得における音声と文字との対応関係に徹底的な重点が置かれていることが看取できた。

次に、観察した本時において印象的だったのは、文字言語獲得に際し、文字の認識に関しても文字の筆記に関しても、感覚知覚や身体運動と連動させている点である。ペスタロッチの「頭と心と体を用いた学び」という点では、これも伝統的ではあるが、例えば空書き(=大雑把な動き)は、筋運動の繊細なバランス感覚が未発達である入門期児童にとって、文字を書くこと(=繊細な動き)の重要な足場となるという、合理的な理由もある。

革新的な授業が伝統的な授業と異なる点は、下記ABの2つである。

A 基本的教育課程に従って1文字ずつ取り立て指導するのではなく、可能な限り全ての文字を全体的に習得する。

B 複数の活動が有意義に結合する。下表④読み聞かせの後には、わかったことや気になったことが問われ、引き続き⑤で聴解力がチェックされる。つまり、聞くこととの結合である。また、読み聞かせた物語の舞台が子どもの日常であることと、①の日常体験の語りが連動しており、いわば、「子供の日常」というミニ単元が形成され、テーマ性を背景に文字を学ぶ動機が高められる。

しかしながら、現代ドイツの教育問題の大きな要因である移民を出自とする多くの児童と学力形成に関わって、革新的な方法は一定のリスクを伴うものであるというコメントも、担任教師から聞くことができた。

a 伝統的な入門期学習指導(2017.11.8 Hans-Kroch-Schule 児童数 14名)

時間	学習活動	学習の様子
7:45	《導入》 体を動かしながら歌唱する。 「私の好きなもの」について自由に語る。 目をつぶって渡された文字教具を触り、どのアルファベットなのかを考える。	ぬいぐるみなど、物を手にしながら。 「どうしてわかったの？」 文字の形を説明する。
7:55	《展開》 教師が、本時の学習文字「N」を板書する。 短い物語を傾聴し、「N」で始まる単語に気がつく。 大文字の「N」を空書きする。次いで、小文字の「n」を空書きする。 板書された「N」「n」を指でなぞる。 ワークブックを用いて、絵に対応する単語を書く。	気がついたら挙手する。 なぞり終わると、4つのグループになって着席する。 語頭あるいは語中・語尾を意識して、大文字「N」と小文字「n」を書き分ける。 終わったら教師に提出する。
8:20	《まとめ》 教師の発する単語に対して、体で反応する。	大文字「N」の場合は、ジャンプ、小文字「n」の場合はしゃがむ。
8:25	終了。	朝食

b 革新的な入門期学習指導(2017.11.7 Frits-Baumgarten-Schule 児童数 25名強)

時間	学習活動	学習の様子
7:50	《導入》 ①「昨日あったこと」の体験を語る。 日付けと時間割の確認する。 教師に続いて語頭音表を音読する。	日直が司会。4名がスピーチ。 全ての音素を読む。児童によっては、手で空書きをする。
8:00	《展開》 ④物語『ララ』の読み聞かせをする。 ⑤学習器具を用いて聴解を確認する。 物語の当該範囲を挿絵風に提示したワークシートの絵を見ながら単語を書く。「O/o」の学習。 ワークブックを用いて、絵に対応する単語を書く。	簡単な気づきや感想を言わせる。 正誤を問う。 絵から「O/o」を含む単語を見つけ、罫線に書く。左側にはみんなで、右側には個人で書く。仕上がった児童は、順次ワークブックを教師に提出し、点検を受ける。
8:20		
8:30	1時間目終了。	
8:45	自由活動：文字から絵へ。	渡されたカードに書かれている文字の絵が描けたら、教師に提出する。
9:20	自由時間に成果の発表をする。	
9:30	終了。	

(3) 書字の発達に関する観察研究

「書く」以外の多様な活動に開かれた学習を仕組むには、児童の書字に関する発達研究が土

台にならなければならない。本研究では、長崎大学附属小学校低学年児童を対象にして、国語科授業において極めて基本的な観察を行い、下記のような結果を得た。今後は、これらを土台にして、「書くこと」の教育を改善するための方策を探究することとする。

図4 授業中の筆記活動

観察した児童	A B C	A B C	D E C
(時期)	1年生 (2016.12)	2年生 (2017.10～12)	3年生 (2018.10～11)
板書の視写	13～27字/分	7～30字/分	21～51字/分
1度の目視で視写できる字数	1～5字	2～3字	2～9字
視写以外の筆記活動(暗写、聴写、メモ、想起など)	—	想起する活動が、授業中に設けられた。	自発的に、聴いてメモする活動が観察された。
特徴	① 意味のまとまりでは、視写できない。	② 下学年で学習した漢字を含む文言では意味のまとまりで視写できる。一方、学習した漢字を含む文言では何度も板書を見直す行為が観察された。つまり、意味のまとまりで視写できなくなる。 ③ 授業の冒頭部に位置付けられた「めあて」を視写する速さと、終末部に位置付けられた「まとめ」を視写する速さでは、全員がほぼ観察全回数において「まとめ」のほうが速く視写できる。	

<引用文献>

土山和久、ドイツにおける入門期書き方教育の実際(調査報告)、第347回大阪国語教育研究会口頭発表資料 P2・4・5・7、2018、(2)文字言語獲得入門期授業の観察

<参考文献>

深井里奈子、ドイツにおける書字教育の変遷と手書き文字の役割、千葉大学人文社会学研究科総合文化研究専攻平成28年度修士論文、2016.9.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計5件)

鈴木慶子、必要感をもって行う書写を含む単元の開発と試行、国語教室研究番、査読なし、巻3、2019、in press.

鈴木慶子、言語活動を支え豊かにする書写学習を求めて、国語教室研究番、査読なし、巻2、2018、46-54.

鈴木慶子、個の学習成果をどう把握するか(2)、全九州大学書写書道教育研究、査読あり、巻1、2017、1-12.

鈴木慶子、語彙漢字書写指導の可能性、国語教室研究番、査読なし、巻1、2017、44-55.

鈴木慶子、個の学習成果をどう把握するか(1)、長崎大学教育学部紀要、査読なし、巻3、2017、203-213.

[学会発表](計5件)

土山和久、ドイツの文学教育における「文学の話し合い」の理論と実践モデル、第357回大阪国語教育研究会、2018.

小野瀬雅人・鈴木慶子・千々岩弘一、ドイツの初等学校児童の筆記具の持ち方に関する研究、日本応用教育心理学会第33回研究大会、2018.

土山和久、ドイツにおける入門期書き方教育の実際(調査報告)、第347回大阪国語教育研究会、2018.

小野瀬雅人・鈴木慶子・千々岩弘一、小学校1年生児童の筆記具の持ち方に関する日独比較研究、日本応用教育心理学会第32回研究大会、2017.

土山和久、ドイツ入門期書き方教育の今日的動向-ハイデルベルグ教育大学 Funke 教授のミニセミナーに基づいて-、第333回大阪国語教育研究会、2016.

6. 研究組織

(1)研究分担者

(2)研究協力者氏名: Reinold Funke

研究分担者氏名: 土山 和久

ローマ字氏名: TSUCHIYAMA, Kazuhisa

所属研究機関名: 大阪教育大学

部局名: 教育学部 職名: 教授 研究者番号(8桁): 00273821